

第6節 青島の商圈概況

1. 青島商業エリアの実態

青島は、各大型企業が長期にわたって先を争い、市場争奪戦を繰り返してきたホットスポットである。経営総合化と専門化の争い、中国本土と外資の争いが現在も激しく行われている。そして、こうした争いが青島商業エリアの構造を絶えず変えてきた。同時に、都市の発展も推進してきた。

●台東商業エリア

4大商業エリアの中で、最も人気があると言えば台東商業エリアが挙げられる。

台東商業エリアは青島市の西南側に位置し、台東歩行者ストリートを中心に、放射状に発展を示している。商業街の占有面積は0.17平方キロメートルに過ぎないが、ウォルマート、利群商厦、万達ショッピング広場、蘇寧電器、国美電器など大型企業が集まっており、“規模は小さいが何もかも揃っている”と言える。

台東歩行者ストリートは、東は延安三路から、西は威海路に至るまで、全長1000メートル余りであるが、平均通行量は延べ20万人、ピーク時には延べ50万人にも達する、青島で最も人気の高い商業の中心地である。以前、台東商業エリアの諾瑪特、紅星美凱龍などの企業が続けて撤退した際に、人々の心には利群とウォルマートもいずれかが必ず撤退するとの思いが生じた。1社は中国本土の傑出した企業、1社は世界の小売業界のトップ企業で、その構成から分析すると、台東商業エリアの競争は妥協を許されない、相容れないものであった。しかし、現在に至り、両社ともまったく波風がなかったとは言えないものの、いずれも存在している。このことは、青島でのビジネスが“和して同ぜず”の発展モデルであることを再び証明することになった。



青島商業エリアの地図

●香港中路商業エリア

最も人気が高い商業エリアが台東商業エリアであるとする、最も“ラッキー”な商業エリアは香港中路商業エリアであると言える。

かなり以前のジャスコの“一人勝ち”の状況から、カルフル、サンシャインデパートなどがその後を追い、さらにマイカル、海信広場、百麗広場など様々なショップが次々と誕生した。併せて、まもなく完成する銀座などの店舗があり、香港中路商業エリアの発展速度は、“驚くべき”という言葉を用いて表現できる。カルフル、百麗広場などの大型店舗と海信広場、ジャスコショッピングセンター、マイカル、サンシャインデパートなど様々な業態が、お互いに補完しながらの経営を実現している。そして、これらの大店舗の大部分は、ショッピング、休息、レジャーを一体として捉えており、このことが香港中路商業エリアの機能の完全化を推し進めている。

●中山路商業エリア

中山路は青島に古くからある商業街として、青島 100 年の移り変わりを記録し、青島 100 年の商業文化を堆積してきた。中山路の青島での位置づけは、北京の王府井、上海の南京路、済南の泉城路のようなものであるとすることができる。これらの場所は、その都市の“名刺”であり、ランドマークである。1898 年に建設が始まった中山路は、ほとんど青島の商業的なトーテムであるとも言える。

しかし、人々があまり注意力を向けないうちに、古い商業エリアは簡単には解決できない苦境に陥った。政府のテコ入れや企業の結束により、多くの人々の期待の中で、中山路は自己の屈強な生命曲線をたどってきた。中山路南面のパークソンは、中山路の“長男”に当たり、開業 11 年を経たにもかかわらず、依然として東部の消費者を引きつけ、人々はここを訪れ消費している。また、北の片隅に位置している、1980 年代の山東省小売業界の“リーダー”だった国貨は、復興への過程で自らの生き方を探っている。上半期の十大店舗業績ランキングの中には、中山路の 2 大店舗は上位に名前がない。しかし、ある企業が言うように青島の 4 大商業エリアの中で、中山路だけが百年の歴史を持つ繁華街であり、中山路だけが棧橋に隣接しており、観光客が必ず訪れるスポットになっている。中山路にだけヨーロッパスタイルの古い建築物があり、中山路だけが真の青島の文化の真髄を具体的に表現できる。寂れた状態から再び繁栄を目指し、中山路が如何に青島の“アフター観光時代”の新注目点となるか、みんなが期待の目で見ている」という状況である。

●李村商業エリア

李村商業エリアについて語る際には、まず長い歴史を持つ李村大集に触れる必要がある。史料の記載によると、李村は、明代後期には早くもその名声が遠くにまで響きわたっていた、定期市が開かれる重要な都市でした。解放前の李村大集は、山東省の 4 大定期市開催地の 1 つとなり、その影響力は十分に大きくなっていった。ある角度から見ると、李村大集は、李村の近代ビジネスの芽を先導し、李滄区全体の現代のビジネスの発展に輻射的に影響を与えた、とも言える。

青島において激烈なビジネス戦争が行われているという大環境の下、李村商業エリアは現在、維客、北方国貨、利客来商厦という 3 つの企業が相対する局面にある。ただし、宝龍城市広場、万達商業総合体、偉東城市広場の着工・建設に伴い、さらに将来銀座ショッピング広場などのプロジェクトの進出、並びに国美電器、蘇寧電器、五星電器などの専門店の陣地を奪い合うかのような参入によって、李村商業エ

リアが多くの企業の争奪の目的地となることは間違いなく、勢いのある発展のトレンドが顕著になっている。

青島の地下鉄建設に伴って、李村商業エリアが最大の受益者の1つであることに疑いの余地はない。完成時には、鉄道の青島北旅客駅、青島地下鉄三号線、流亭国際空港、4本の軌道交通路線、さらに“縦横無尽”に走る交通ネットワークを加え、李滄区は他の区とは比較にならないほど便利な交通分野の優位性を備えることになり、李村と沿海一帯の距離を縮めることにもなる。

2. 青島市の概要

青島市は、中国で最も経済活力を備えた10大都市の1つである。これまでのところ、20以上の省・市、50以上の国家及び地区の投資企業が、累計90億ドル以上を投資している。世界500強企業の中の30社以上が当地に投資し、50以上のプロジェクトを実施してきた。

青島には中国の有名企業が多数ある。例えば、海爾集団、海信州団、青島鋼鉄控股集团、青島ビール股フェン有限公司、澳柯瑪集団、頤中烟草(集団)、双星集団、青島広源発集団、利群集団、青島港(集団)、青島建設集団、山東綺麗集団などである。

青島は現在、“世界知名特色都市”と“全国重点中心都市”建設の総目標を中心にして、“繁栄の青島”“平安の青島”“文明の青島”建設に大きく力を注ぎ、「港湾」「観光」「海洋」の三大特色経済の発展を加速している。

(1) 歴史

青島は歴史・文化を誇る有名都市で、中国道教の発祥の地でもある。6000年前、当地にはすでに人類が生存し、繁栄していた。東周時代には、当時の山東地区第2の大都市——即墨を築きた。秦の始皇帝は、中国を統一後、現在の青島膠南市に位置する琅琊台を3回訪れた。秦代の徐福はかつて、船隊を率いて琅琊台から東へ航海し、朝鮮、日本に渡った。漢代の武帝は、現在の青島市城陽区に位置する不其山“祀神人于交門宮”と、膠州湾畔女姑山祭天拝祖に、9カ所の儀式場を設立した。清朝の終年に至るまでに、青島は発展した華やかな都市となり、昔は膠澳と称されていた。

改革開放以降、青島は再びその優位性を持つ地理的位置を利用して、国外との接触を通じ、その重要性を具体化した。これにより、青島は単列都市の計画に入れられ、副省レベル都市に列記された。北京オリンピックにおけるセーリング競技の実施・成功など、青島港は全国第三番目の大港となった。これらの事柄はすべて青島の再度の復活を意味している。

(2) 地理的位置

青島は山東半島の南端(北緯 35° 35′-37° 09′, 東経 119° 30′-121° 00′)、黄海に沿った場所に位置している。青島市は山東半島南部に位置し、東側、南側は黄海に臨んでいる。東北側は煙台市と隣接し、西側は濰坊市と、西南側は日照市と接している。

(3) 気候

青島は北温帯モンスーンエリアに位置し、温帯モンスーン気候に属しているが、海洋性気候の特徴も多少持ちあわせている。青島と日本の東京とはほぼ同一の緯度上に位置している。都市部は、海洋環境

の直接の調整によって、海上からの東南季節風及び海流、水塊の影響を受けるため、はっきりとした海洋性気候の特徴を持ちあわせている。1898年以降の100年以上の気象データに基づくと、都市部の年平均気温は12.7℃で、これまで記録した最高気温は38.9℃(2002年7月15日)、同最低気温は-16.9℃(1931年1月10日)となっている。年間を通じて8月が最も暑く、平均気温は25.3℃、1月が最も寒く平均気温は-0.5℃である。

(4) エリア、人口、面積

青島の面積は1万1282平方キロメートルで、そのうち都市部は1471平方キロメートル、常住人口は871.51万人(2010年)である。

7つの区と5つの市を管轄している。市人民政府は市南区に位置している。郵便番号は266000、電話のエリア番号は0532である。

- ・市南区 面積30平方キロメートル、人口54.48万人。
- ・市北区 面積29平方キロメートル、人口55.82万人。
- ・四方区 面積35平方キロメートル、人口46.25万人。
- ・李滄区 面積98平方キロメートル、人口51.24万人。
- ・黄島区 面積277平方キロメートル、人口52.42万人。
- ・嶗山区 面積389平方キロメートル、人口37.95万人。
- ・城陽区 面積553平方キロメートル、人口73.72万人。
- ・胶州市 面積1210平方キロメートル、人口84.31万人。
- ・即墨市 面積1727平方キロメートル、人口117.72万人。
- ・平度市 面積3166平方キロメートル、人口135.74万人。
- ・胶南市 面積1846平方キロメートル、人口86.84万人。
- ・菜西市 面積1522平方キロメートル、人口75.02万人。

「青島市2010年第6回全国人口調査主要データ公報」によると、全市の常住人口は871.51万人である。そのうち、男性は439.18万人で、総人口の50.39%を占めている。女性は432.33万人で、同49.61%を占めている。65歳以上の人口は89.39万人で、10.26%を占めている。大学教育程度の学歴を有している人口は129.54万人である。

(5) 交通状況

① 航運

青島港は有名な天然港で、中国の黄海沿岸及び環太平洋西岸の重要な国際貿易港であり、海上運輸の中枢でもある。コンテナ、鉱石、原油及び石炭の埠頭を持ち、450以上の港に通じる97の国際路線があり、毎月419の国際就航便が世界各地を往来している。2010年、青島港の年間取扱量は3.5億トンの大台を突破し、前年比11%増の3億5012万トンとなった。コンテナの取扱量は1200万個に達し、コンテナ取扱量の多い港の世界第7位にランクされている。

②航空

青島の航空運輸は著しい成長を保持している。青島空港の2010年の飛行回数は延べ10.3万回に達し、輸送旅客数は延べ1109万人、貨物・郵便取扱量は16.2万トンで、国際大型空港の仲間入りに成功し、山東省初の“1000万空港”となった。すでに開通している直行便には、東京、名古屋、大阪、福岡、ソウル、プサン、仁川、大邱、フランクフルト、パリ(上海経由)、欧州7カ国(北京経由)、シンガポール、バンコク、及び香港、マカオ、台湾など20以上の国際(地区)旅客・貨物路線がある。国内では、北京、上海、広州など85路線を運行している。

③公共輸送

青島の道路交通は十分に発達している。これまでに、青島市はすでに済青、胶州湾、西流、夏双、濰菜、同三、青新、国道308号線、国道206号線、前湾港疏港など9本の高速道路を完成している。高速道路の総延長距離は702キロメートルに達し、全国の高速道路の総延長距離の60分の1、全省の6分の1を占めている。現在、青島市の高速道路は、本数、長さ、密度、並びにすべての道路に占める高速道路の割合などの指標において、全国の同類都市の中ではいずれも第1位となっており、先進国家とほぼ同じ水準に達している。濱海道路は、青島交通体系の主要な骨格の1つで、このプロジェクトは、北は青島即墨市豊城栲栳大壩東端から、即墨市、嶗山区、市南区、黄島区、胶南市を経て、国道204号線を越えて日照市につながる。濱海道路の総延長距離は約182キロメートル、プロジェクトへの総投資額は約37億元、工期は2年となっている。これまでに、胶南部分はすでに全線開通している。青島、黄島をつなぐ海底トンネルと海峡大橋はすでに開通している。